

2019年度 多摩大学インターゼミ(社会工学会)
サービス・エンターテインメント班

多摩地域のコミュニティ形成

～高齢者の社会参画と地域づくりプラットフォームの構築を中心に～

学部生: 上岡萌絵・平山佳苗・佐保尚寿・久保玲二・渡邊
友裕・藤田功希・石川光一・金東玟・田中千尋
大学院修了生: 新部均・服部吉晶・追分健爾・葛生善江・
中村晶子

問題意識

〔 昨年の研究から 〕

百貨店が衰退し、SMが出現し隆盛を極めている

→ 多摩地域全体が「低額でのんびりした時間を過ごす」

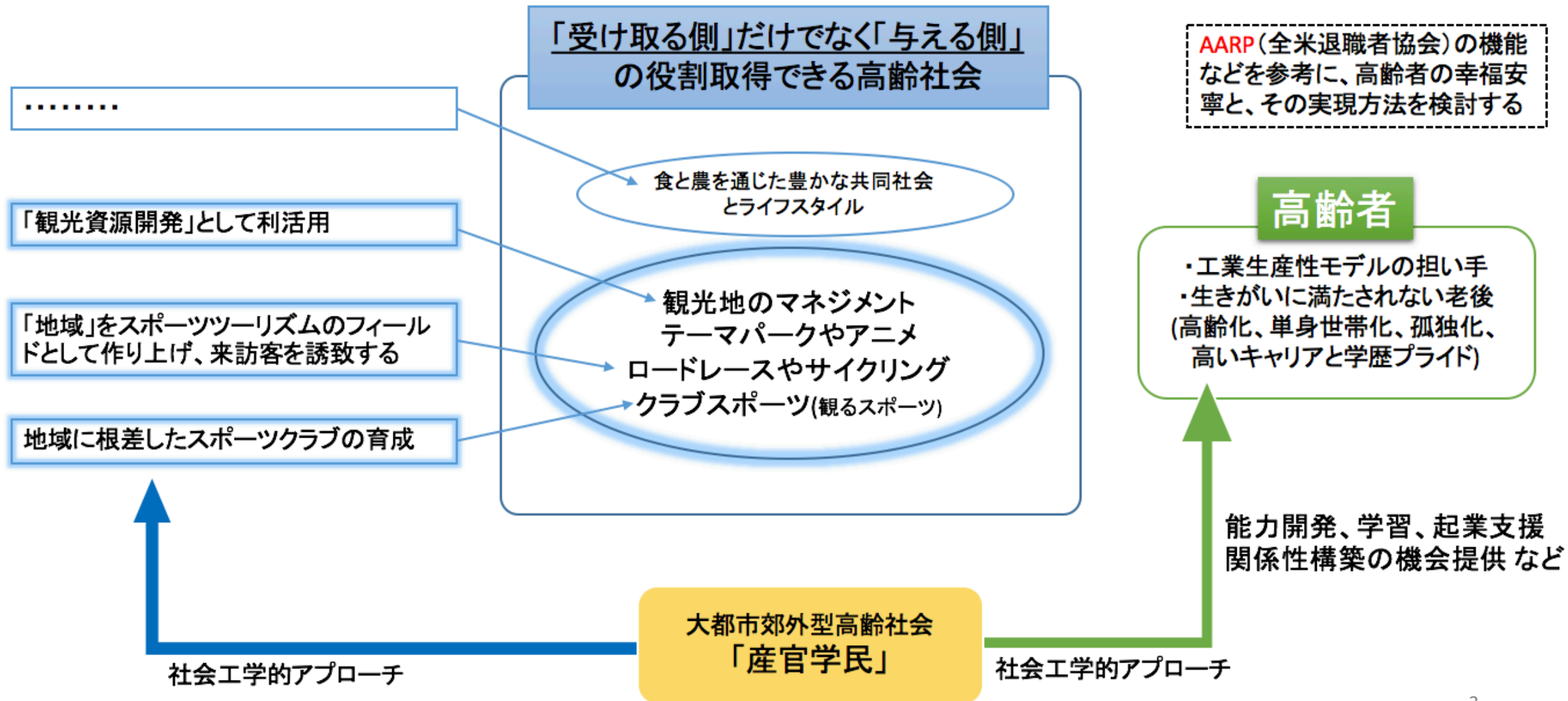
ライフスタイルであることが推察された（ 貧困化、孤立、孤独 ）

生きがいや
役割意識の
喪失

社会への参画、役割取得

住民が参画できるプラットフォームが必要

研究ビジョンの全体像



ジェロントロジーからみる今後の余暇行動

・高齢者の社会的活動

内閣府『令和元年版高齢社会白書』より

□ 社会的な貢献活動に参加している(約30%)

良かったことは？



1. 親しい友人を得ることができた (56.8%)
2. 地域でのつながりができた(50.6%)

□ ここ1年間で生涯学習をした(約40%)

何に活かしている？



1. 自分の人生がより豊かになっている (61.4%)
2. 自分の健康を維持・促進している(57.3%)

AARP (全米退職者協会)

「与えられる側から与える側へ」の理念

…独自のシンクタンクを持っており全米の高齢者に関わる調査研究データを新しいプロジェクトやサービスの開発に繋げている

やはり課題は 「孤独と独立」、「生きがいや役割意識の喪失」

善後策として 「スポーツが生み出すソーシャルキャピタル」に着目

1. スポーツ観戦型 コミュニティ形成

「スポーツ観戦行動」がソーシャルキャピタルを形成する可能性について

帰属意識の創出

チームと選手たちへの強い関心と応援が
他者と「強く繋がっている」という感情に繋がる

愛着のある「場」の醸成

スタジアムは多くの人々にとっての
トポフィリアの源泉となっている
(自分の場に所属し、その中にいる感覚)

スポーツ観戦

特有のリアリティ

スポーツ観戦は「焦点の定まった集まり」
→ 観客はその統制の中で興奮し没入することで
多幸状態に至る (自然さ、気楽さを感じる)

社交の機会を促進

地域の伝統的なコミュニティが崩壊、
アイデンティティが希薄な住民にとって
「スタジアム」は手軽な社交場
(居心地が良い、スペクタクルに満ち溢れた場)

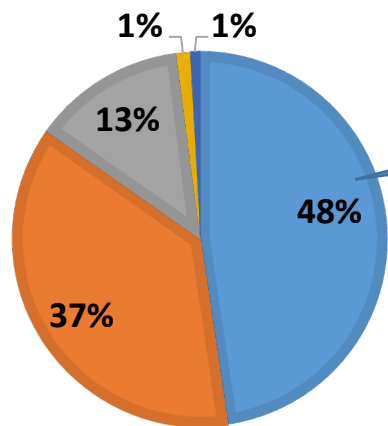
1. スポーツ観戦型 コミュニティ形成

26周年目を迎えた、J.League の現在

1993年開幕(10クラブ)→2019年現在 38都道府県55クラブ(J1～J3の3部制)



各クラブがホームタウンで
重要な役割を果たしているか



85%が「あてはまる」と回答。

多摩地域には3クラブ存在

- FC東京(J1)
- 東京ヴェルディ1969(J2)
- FC町田ゼルビア(J2)

「オリジナル10」の存在

- 鹿島、千葉、浦和、東京V、横浜FM、清水、名古屋、G大阪、広島
(横浜FMは合併)

✓ 1993年～1995年度が割合的に高い傾向

✓ 清水エスパルスは1993年～1995年度の観戦を始めた割合が**30.7%**

- 大いにあてはまる ■ あてはまる
- どちらとも言えない ■ あてはまらない
- 全くあてはまらない

J.Leagueはどのようなコミュニティを提供してきたか

『Jリーグ スタジアム観戦者調査2018 サマリーレポート』参照

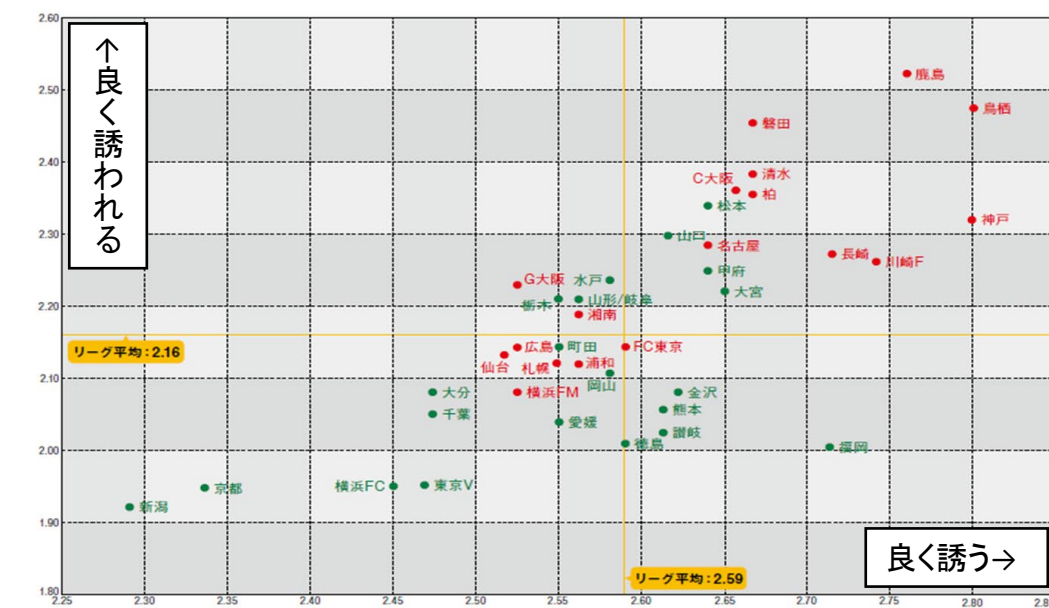
- 観戦者の平均年齢：**41.9歳**（2018年度）

- ✓ 開幕を**中学生時代**に迎えた世代
- ✓ 45±5歳→スタジアム観戦を継続

- ✓ 平均して高いJ1
- ✓ 平均して低いJ2

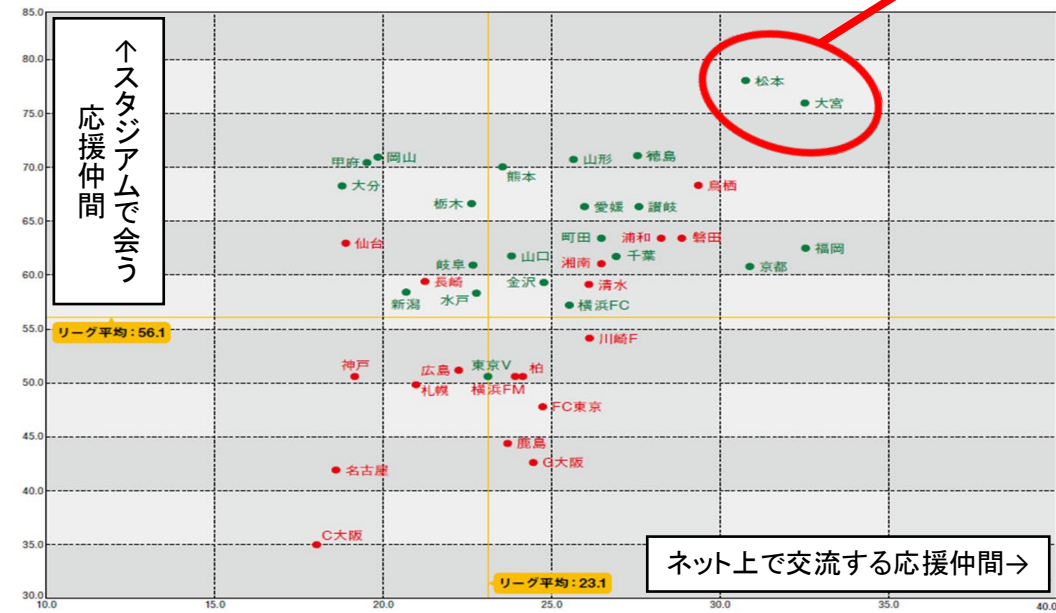
- ✓ 50代以上も上昇中
- ✓ 開幕時にすでに生まれている世代

勧誘行動と被勧誘行動について
（心の拠りどころとしてのクラブ）



ファンコミュニティ
（スタジアムとネットが支える現代）

- 松本 (J2)
- 大宮 (J2)



FW（八王子ビートレインズへのヒアリング）

【7月27日実施】同クラブの沢登氏・望月氏へのヒアリング 【結果】

「八王子ブランド」を活用

- 「選手」ではなく「地域」が好きで応援している
- 「八王子」は、もともと住民同士の「横の繋がり」がある地域であるため、「南大沢や多摩」とは異なる
→ 「横の繋がり」が希薄な多摩地域においては、新しいクラブチームを立ち上げることは難しい？



だからこそ、「スポーツ」が地域に入っていくことが大切なのではないか？

2. 参画型コミュニティ形成



2. 参画型コミュニティ形成

✓ 国内・国外の観光客にどうアプローチするか

→ 多摩地域の関係人口を増やす

✓ ジェロントロジー

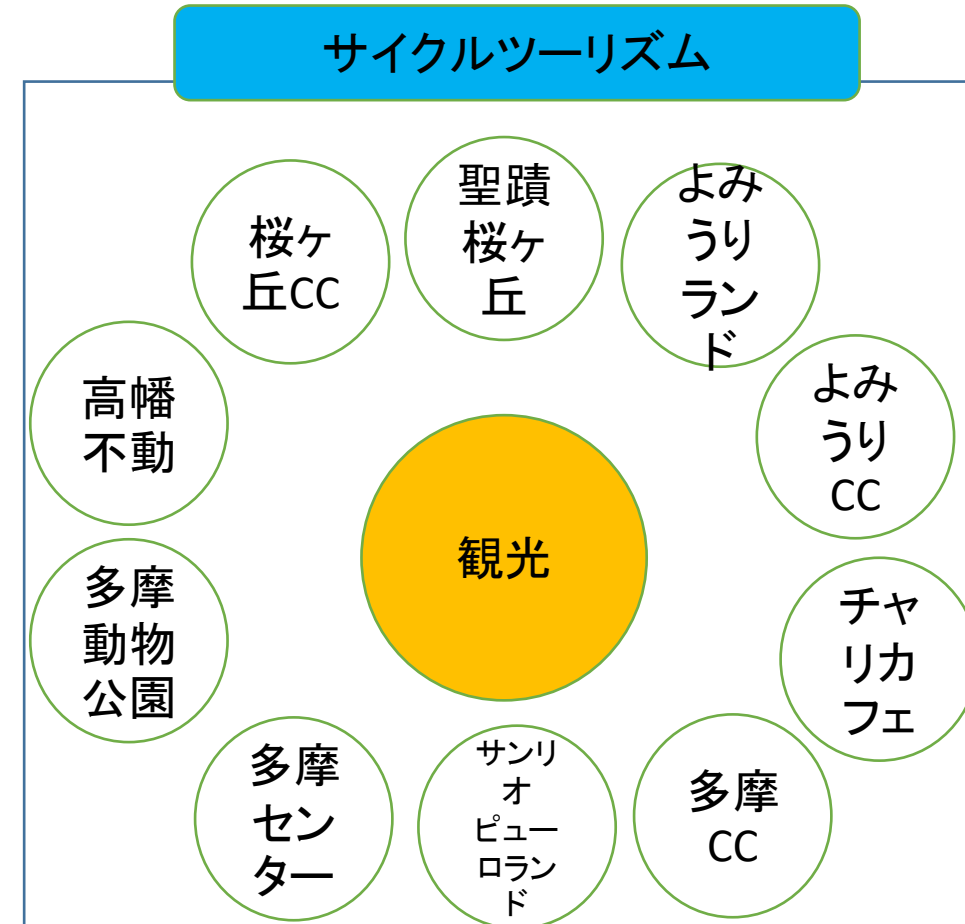
→ どのような形で高齢者に参画してもらうか

✓ 多摩住民の自転車文化への理解

→ 地域全体での支援が必要

✓ 道路整備(交通インフラ整備)

→ 自転車で安心して通行できる環境が必要



Paldang(ソウル)での取り組みとそこから見えてきた課題点

- ・サイクルツーリズムとして全国的に有名なソウルのPaldangはインバウンド対策とジェロントロジーの課題をクリアしつつある。

[ジェロントロジー]

- ・自転車レンタルショップ、整備所、休憩所などで勤務・ボランティア活動をしている。
- ・コース整備・管理にも高齢者が勤務・ボランティア活動をしている。

[インバウンド対策]

- ・ソウル市役所、観光庁からの多言語パンフレット(市役所及びコース内案内所に備わっている。
- ・コース内案内図には多言語で書かれている。
- ・案内所、休憩所に多言語を話せるスタッフ配置

- ・海外事例から見る多摩サイクルツーリズムの課題点

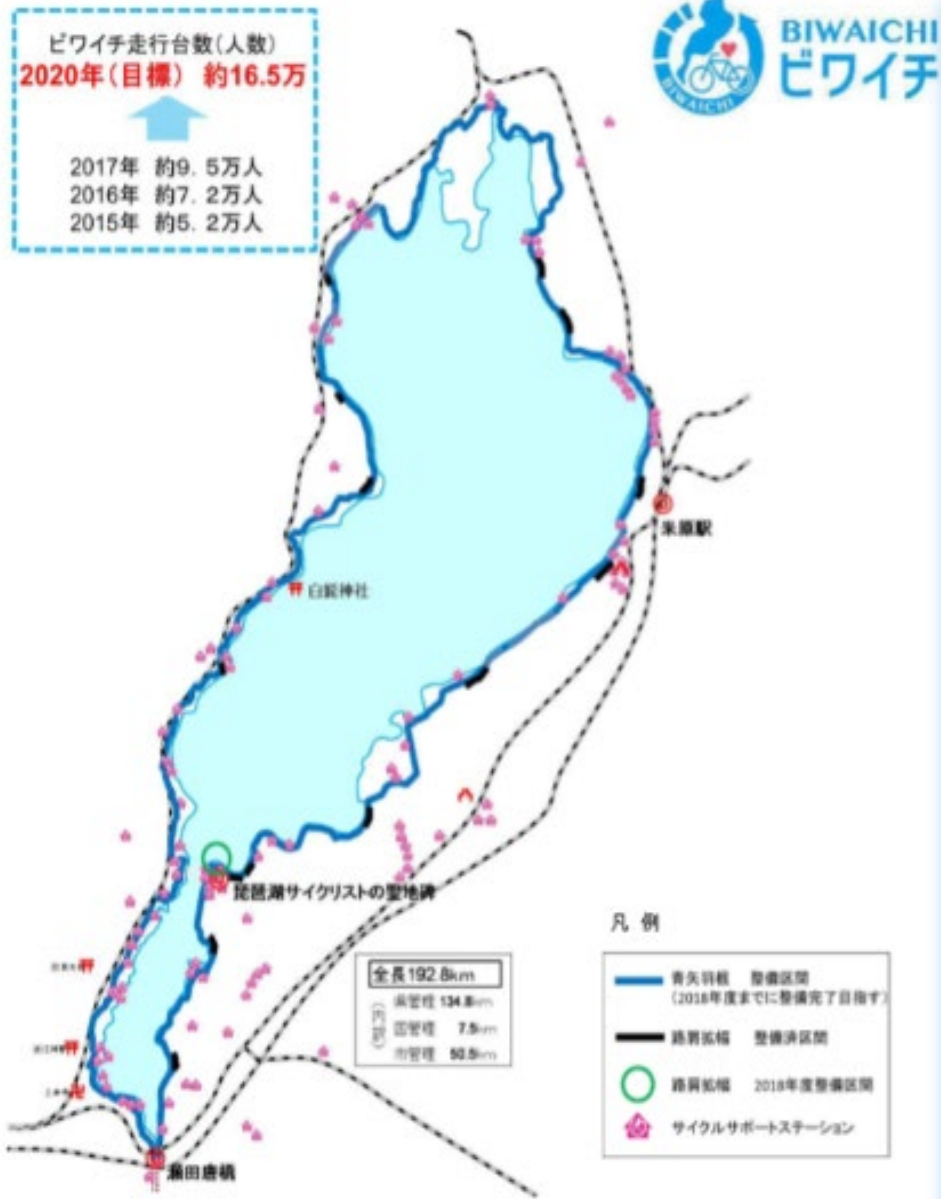
[ジェロントロジー]

- ・自転車整備所、レンタルショップ、案内所、管理スタッフに高齢者を活用(バイト、ボランティア活動)
- ・サイクルツーリズムのための自転車コース整備(道路整備)に必要な資金を募る。

[インバウンド観光客への取り組み]

- ・韓国の成功事例を参考にし、市役所、観光案内所などに多言語パンフレットを配置
- ・案内所などに多言語を話せるスタッフ配置

サイクルツーリズムの現状・ビワイチ(設置型)



インバウンド観光客への取り組み

走行道路設備

青屋羽根の設備
(約116キロ)

路肩拡幅の整備
(14か所、約3キロ)

案内表示の設備

レンタルサイクル

サイクルサポートス
テーション整備

ビワイチツアーガイ
ドの養成

レンタルサイクル

自転車移送サービス

湖上交通タクシー
(守山市)

専用の箱での宅配
サービス

自転車 + α

スイーツ・グルメ・
癒し・風景・ヨガな
ど

FW(チャリカフェ・体験・ロードレース)



FW(サンリオ)

【7月27日実施】サンリオピューロランドを見学、
今後関係者へのヒアリングを行う。

【結果】:親子連れや外国人観光客が多い。



まとめと今後の課題

観戦型

- 「スポーツ観戦行動」は
 - ① 愛着のある「場」の醸成とそこへの帰属意識の創出へ寄与する
 - ② 社交の機会を促進させるきっかけとなる
 - “われわれ意識” の創出
- リーグのクラブは、スタジアムを中心とした横のつながりの拡大に寄与している
- 大都市郊外型高齢社会におけるスポーツ観戦文化の創出モデルを考察する

参画型

- 多摩地域にはサイクルツーリズムのポテンシャルがある
- サイクルツーリズムが発展することにより様々なコミュニティ形成が期待される
- 関係人口との関わりが増え交流機会の増加に繋がる
- これらの要因から高齢者がどのような参画をすべきかを考察する

今後のFWと文献研究の予定

- サンリオピューロランドでのヒアリング: 9月

株式会社サンリオエンターテイメント総務部総務課総務Gr.真鍋和弘氏へのヒアリング

- 埼玉県浦和市のサイクリングロード: 8月
- 稲城市にあるチャリカフェ「CrossCoffee chocolate&sandwiches」へのヒアリング: 8月
- Jリーグ観戦者数調査をしている仲澤教授へのヒアリング(筑波大学): 9月

参考文献

- ・ 寺島実郎 『ジェロントロジー宣言:「知の再武装」で100歳人生を生き抜く』 NHK出版、2018年
- ・ 寺島実郎 『シルバー・デモクラシー戦後世代の覚悟と責任』 岩波新書、2017年
- ・ 寺島実郎 『新・観光立国論モノづくり国家を超えて』 NHK出版、2015年
- ・ 寺島実郎 『何のために働くのか、自分を創る生き方』 文春新書、2013年
- ・ 三浦展 『第四の消費』 朝日新聞出版、2012年
- ・ 内閣府 『高齢社会白書』（2018年度版）<<https://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/index-w.html>>
- ・ 橋本純一 『スポーツ観戦学～熱狂のステージの構造と意味』 世界思想社、2010年
- ・ 橋本純一 『現代メディアスポーツ論』 世界思想社、2002年
- ・ アラン・ブライマン 『ディズニー化する社会』 明石書店、2008年
- ・ G.リッツア 『マクドナルド化した社会』 早稲田大学出版部、2012年
- ・ 「多摩地域が一体で取り組む観光地域づくり-取り組み報告と今後の取り組み方針について-」(2017年度)、東京都市長会
<<https://www.tokyo-mayors.jp/katsudo/pdf/tamastukurikankyoudukuri2018.pdf>>
- ・ 多摩地域データブック 2016年度版 <http://www.tama-100.or.jp/contents_detail.php?frmId=675>
- ・ 木田悟、高橋義雄、藤口光紀 『スポーツで地域を拓く』 東京大学出版会、2013年
- ・ 堀繁、木田悟、薄井充裕 『スポーツで地域を作る』 東京大学出版会、2014年
- ・ 杉本厚夫 『スポーツファンの社会学』 世界思想社、2001年
- ・ 高島国男 『サッカー狂の社会学ーブラジルの社会とスポーツ』 世界思想社、2003年
- ・ 塚田修一、西田義行 『国道16号線スタディーズ ニ〇〇〇年代の郊外とロードサイドを読む』 青弓社、2018年

- ・ リンダ・グラットン／アンドリュー・スコット『LIFE SHIFT』 東洋経済新報社、2016年
- ・ 西崎信男 『スポーツマネジメント論～プロ野球とプロサッカーの経営学～』 税務経理協会、2015年
- ・ 生方幸夫 『Jリーグの経済学』 朝日出版社、1994年
- ・ 宮本恒靖 『日本サッカーの未来地図』 角川学芸出版、2014年
- ・ フェラン・ソリアーノ 『ゴールは偶然の産物ではないFCバルセロナ流 世界最強マネジメント』 アチーブメント出版、2009年
- ・ クリスティン・ヤノ 『なぜ世界中が、ハローキティを愛するのか？－“カワイイ”を世界共通言語にしたキャラクター』 作品社、2017年
- ・ バーネット・ボロテン 『スペイン内戦[上] 革命と反革命』 株式会社晶文社、2008年
- ・ バーネット・ボロテン 『スペイン内戦[下] 革命と反革命』 株式会社晶文社、2008年
- ・ E.H. カー 『コミンテルンとスペイン内戦』 岩波モダンクラシックス、2010年
- ・ 近藤隆雄 『サービス・マーケティング[第2版]－サービス商品の開発と顧客価値の創造－』 生産性出版、2018年
- ・ 高橋義雄 『サッカーの社会学』 日本放送出版協会、1994年
- ・ 金森喜久男 『サッカー界における顧客の創造』 株式会社フロムワン、2014年
- ・ 田中和宏 (2004) 『テーマパークの動向における計量的分析』 < <http://www.econ.kobe-u.ac.jp/introduction/pdf/140514h.pdf> >
- ・ 愛知大学 経営総合科学研究所 (2008) < <https://leo.aichi-u.ac.jp/~keisoken/research/DP/DP2008-01-Kadomoto.pdf> >
- ・ 日経ビジネス 『V字回復に導いた「1日12回」の朝礼』 < <https://business.nikkei.com/atcl/seminar/19nv/00124/00001/> > 最終閲覧日:2019年6月4日
- ・ NEWSポストセブン 『ピューロランド黒字化 中華圏女子のハローキティ人気が後押し』
< https://www.news-postseven.com/archives/20130609_193176.html > 最終閲覧日:2019年6月4日

ご静聴ありがとうございました。